

# 成果報告書

(地域文化倶楽部創設支援事業)

ホルトホール大分みらい共同事業体

所在地	大分県大分市	設立年	2012年
運営主体	ホルトホール大分みらい共同事業体		
事業目標	子ども達が身近な地域で平等に質の高い文化芸術に触れあう機会を創出する。 大分県には、多くのジャンルのアーティストが住んで活動をしているので、そのアーティストと直に触れ合い、作品制作を間近で見て体験することで「自由に表現する」ということを体感して貰う。		
きっかけ	学校の授業の中でも「図工/美術」「音楽」の授業数はとても少ない。芸術科目は他科目と違い、正しい答えを導き出すのではなく「自己表現」を学ぶ場である。 また、大分在住のプロアーティストに触れ合う機会を作り、特別な体験をすると同時に、学生時代にしかできない、自由な発想を形にする場所を提供したいと考えたため。		
団体・組織等の連携	<p>ホルトホール大分みらい共同事業体</p> <p>大分県内小学生 中学生</p> <p>大分市美術館</p> <p>大分県立芸術文化短期大学</p> <p>講師紹介 大分県内在住のプロアーティスト</p> <p>講師紹介 演奏家(非常勤講師)</p> <p>募集</p> <p>応募</p> <p>連携 (講師紹介)</p> <p>ワークショップの実施</p>		
活動場所	J.COM ホルトホール大分(大ホール・小ホール・会議室)		
活動概要	<p>全3回のワークショップ</p> <p>①様々の技法の紹介(絵を描く時の技法紹介&amp;実践)</p> <p>②ライブペイント鑑賞会(チェロ・ピアノの演奏を聞き、その音楽に合わせて作家5名がライブペイントを行う。そのライブペイントを自由に鑑賞し、プロ作家の表現の違いを体感して貰う)</p> <p>③作品制作(自分の書きたいものを自由にキャンバスに書いて貰う)</p>		

## ○本事業による成果

画家が目の前で作品制作をする姿や、生の演奏を聞くことで刺激となり、「自分で自由に表現する」ということを考えるキッカケになった。

【参加者の声(アンケートより)】

- ・今までよりも芸術に興味を持てた。
- ・好きな様に絵をかけて楽しかった。
- ・様々な表現方法を知り、少しの工夫をすることで自分だけの作品をつくることができ、達成感を感じた。
- ・アーティストの完成したものではなく、完成するまでを見ることができて面白かった。
- ・大好きなアーティストさんに会えて話ができて嬉しかった。

他、特別な体験ができたと感じている参加者が多かった。

地元で活躍するアーティストとの出会いを作ることで、このアートスクールが終わっても、各アーティストの個展やイベントに親子で出かけるキッカケ作りの場となった。

そうすることで、アートスクールが終了しても、参加者自身がアートを身近に感じ、アーティストのイベントに積極的に出かけることにより、大分県全体の文化芸術の盛り上がりに関わると感じた。



### ○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・スタッフ・アーティスト等、関わるスタッフを40代以下とし、参加者が話しやすい環境を作った。
- ・学校ではなかなか触れられない道具を揃えて、絵を描くことへの意欲が増すようにした。
- ・「自由に描きたいもの描こう」というとても抽象的なコンセプトだったので、一番最初に技法を紹介し、何を描いたらいいかわからない。ということがない様に進めた。
- ・1クラス25名という少人数制にしたことで、講師がまんべんなく話かけることができた。



## ○運営上の工夫

- ・講師を大分県で活躍しているプロのアーティストにお願いし、質の高い文化芸術活動が充分に出来る環境を整えた。
- ・募集は、主催であるホルトホール大分みらい事業体で行った。大分市にも協力して貰い、近隣の小中学校には、生徒1人1人に配ってもらった。予算がもう少しありチラシを刷る枚数を増やせれば、近隣のみでなく、市内・県内の学校への配布が可能であったと思う。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

- ・活動場所を大ホール・小ホールにしたことで、内容だけでなく、普段入ることの少ない場所での体験になり、より貴重な体験をして貰えた。しかし、回数が多くなると、毎回ホールを利用するわけにはいかないの、場所確保については別の場所を検討する必要がある。
- ・大分市美術館・大分県立芸術文化短期大学と連携したことで、各機関からアドバイスをいただき質の高いイベントを実施することができた。
- ・地域の学校において、部活は専門の知識を持たない教員にも割り振られている場合があり、音楽・美術も例外ではない。なので、地域のアーティストが学校の先生に変わり、地域の子供達と関わることで、講師の体力的・精神的負担の軽減につながると考える。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

- ・予算の増額は必須だと感じた。
- ・ホール主体だと、年間を通じて継続的にイベントを行うことは、スタッフの人数等を考えても難しいように感じる。

※上記4点の記載の中に活動の画像を挿入してもよい。

※『地域移行(展開)を進める際のポイントチェックリスト』を参照すること。

参加者 (予定人数)	対象学年:小中学生 目標100人、実績97人 今後の予定人数:令和4年度は開催予定無し
募集方法	チラシ配布・SNSでの募集記事掲載
指導者	連携団体から紹介してもらった実演家7名 <メイン講師> ・芳賀健太(空間ペインター) ・丸岡あすか(アシスタント) <ライブペイント> ・北村直登(画家) ・トマリアサミ(アーティスト) ・森山楓(画家) ・田村朋弘(チェロ) ・小町美佳(ピアノ)
移動手段	保護者による送迎・公共交通機関(バス等)
活動費用	講師謝礼・教材費・運営スタッフ費・チラシ印刷広報費・楽曲使用料
スケジュール	前期:7/28 8/19 8/22 作品展示:8/24~8/29 後期:10/31 11/6 11/23 作品展示:12/2~12/6
保険加入等	スポーツ安全保険 100名

※文化庁ホームページ:地域文化倶楽部(仮称)の創設に向けた検討会議 [事例集](#)を参照  
掲載URL

([https://www.bunka.go.jp/shinsei\\_boshu/kobo/pdf/92801101\\_09.pdf](https://www.bunka.go.jp/shinsei_boshu/kobo/pdf/92801101_09.pdf))

※それぞれの項目に掲載しているのはあくまで例示ですので、掲載しているもの以外の観点等で自由に記載していただいて結構です。ただし、どこかの項目に学校の働き改革(教員の負担軽減)を踏まえた観点の記述を必ず入れていただきますようお願いいたします。(本事業の最大の目的であるため)

## 【活動の様子（写真添付）】



## 【集合写真】



## 【作品展示】



※追加資料:ワークショップの様子を3分程度にまとめた動画を提出いたします。

(YOUTUBE上動画アドレス→ <https://youtu.be/506Dtmid7mM>)